

米軍普天間飛行場の陸上自衛隊日出生台演習場への訓練移転に反対する決議

政府は、沖縄県の米軍普天間飛行場の移設について、本年五月末を期限として、解決するという決意を示しているところである。

こうした中、三月八日に開催された政府・与党の沖縄基地問題検討委員会に提示された米軍普天間飛行場の移設案の中に、訓練場として本県の陸上自衛隊日出生台演習場の名前が挙げられているとのことである。

本県に対し、検討過程とはいうものの、公式・非公式を問わず、事前に何ら説明もなかったものであり、このことについて、本県としては、極めて無責任と言わざるを得ない。

本県は、現在、沖縄県の負担軽減のために、苦渋の決断をして「在沖縄米海兵隊による日出生台演習場における実弾射撃訓練」を受け入れている。しかしながら、これについてさえ、縮小・廃止を強く要請しており、県議会としても支持しているところである。

このような状況の中で、移設案の中に「日出生台」の名前が挙がること自体、こうした県民の気持ちに逆行することになる。

よって、本県議会は、米軍普天間飛行場の移設に関して、陸上自衛隊日出生台演習場を対象とするいかなる案についても受け入れできないことをここに決議する。

平成二十二年 三月 十日